

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

【I. 事業全体の取組について】【II. 事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）】

「地球社会の持続可能性向上」に貢献する 世界トップレベル研究大学へ

大学の成長

世界トップレベル研究大学としての地位の確立

- 研究資金規模拡大による世界トップ研究大学を目指す基盤の構築
- 学際的かつ国際的な最先端研究の推進および超成熟社会の持続的発展・SDGs達成への貢献
- 海外大学・企業との研究連携強化
- 産学連携・ベンチャー支援の加速
- 研究大学コンソーシアムにおいて中心的役割へ・国際社会への提言

教育プログラムの国際化と学生の研究力向上

- 全学的な外国語による授業体制・英語によるプログラムの拡充
- 国内トップレベルの協定校・ダブルディグリープログラム拡充および海外有力大学との連携
- 海外研究者による学生の研究指導機会の拡充
- 国際標準の学事システム導入・教育・学修の全学的な質保証・向上

全学的ガバナンス体制の強化とグローバル化対応支援体制の構築

- 慶應義塾アクション・プランに基づく「未来の先導者、グローバルシズン」としての理想の追求の実践
- 塾長をトップとした国際化推進体制
- 海外有力大学の学長による諮問機関の大学運営への活用
- 国際的な契約案件への体制強化
- 協生環境推進・SDGs対応
- SGU事業自走化財政基盤の構築

世界大学ランキングの向上

- QS世界大学ランキング(2017→2025) 上位23.1%→12.5%へ向上(順位は216位→188位)
- 雇用者レビュー(46位)や卒業生の活躍(69位)で高評価分野別では7分野が150位以内
- THEインパクトランキング(2023): 3つのゴールで100位以内を獲得
- Goal16(平和と公正をすべての人)には世界32位を獲得(国内トップ)



超成熟社会の課題解決・SDGs達成に向けた研究・教育連携

- GULF APRU APAIE CEMS T.I.M.E. U7+Alliance RU11 GRIUN SDG-UP RENKEI 2023年度~

▲国内外 大学コンソーシアム

総合研究力（医薬・理工・社会・人文科学）を活かした産学連携・国際共同研究

- 21COE・GCOE リーディング大学院 世界展開力 研究大学強化促進 オープンイノベーション WPI 2022年度~ J-PEAKS 2023年度~

▲文部科学省補助事業

事業全体の取組・得られたアウトカム 数値・実績は、2013年度→2023年度

研究・教育

- KGRIを中核拠点とする「長寿」「安全」「創造」の3クラスターにおける国際的文理融合研究の推進による、国際共著率の向上・英語論文数の増加
- クロス・アポイントメント制度を活用した海外副指導教授任用による、学生の海外研究者から研究指導を受ける機会の拡充および国際共同研究・共著論文の創出・促進
- 大規模な研究資金獲得による研究資金規模の拡大：197億円→288億円
- 国内トップクラスの実績を誇る大学発ベンチャーの支援体制構築
- 学生の海外留学/モビリティの増加
 - 留学生の受入：1,735人→3,389人 /派遣数：814人→1,209人(通年)
 - 協定大学・機関数：260超→340超
 - 全学レベルの学生交換協定校数：112校(24カ国・地域)→146校(33カ国・地域)
 - ダブルディグリープログラム数：23件→31件(海外有力大学との提携、CEMSプログラム等)
 - 英語による学位取得プログラム・英語による授業：PEARL・GIGA・GIC等
- ナンバリング体系の全学統一および学修支援システムの国際標準化、GPA制/4学期制導入
- ワクチン職域接種の早期実施による他大学学生も含めた留学希望者への支援
- 一貫教育校との連携、初等中等教育段階からの国際化推進

国際広報・レピュテーションマネジメント

- 英語による情報発信量の増加と質の向上(ウェブサイトやSNS等での研究広報、入学広報等)
- KGRIによる国際イベントの開催と研究成果の発信
- 翻訳体制・システム(Kトラ)構築による事務文書英語化の安定運用・学内インフラ整備
- 国際的な大学コンソーシアム等を活用した戦略的連携と国際プレゼンス向上(U7+Alliance学長会議のホストとG7への提言、APRU Steering Committeeメンバーに就任、GRIUNにRU11国際担当として日本を代表し参加)
- 東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国代表チームの事前キャンプホストによる知名度向上
- 日本留学フェア(EJE)主催および日本留学に関する情報を集約したポータルサイトの公開によるオールジャパンでの日本への留学の誘致
- FutureLearnによる教育コンテンツの世界的発信

ガバナンス・組織

- 塾長をトップとする事業推進体制・学内各部門への情報共有体制の構築
- グローバルな視点を取り入れたアクションプラン・事業計画策定と自己点検・評価
- 海外有力大学の学長による諮問機関の設置(グローバルアドバイザー・カウンシル)
- グローバル本部の設置によるグローバル対応一元化およびIR・国際広報機能強化
- 法務部の設置による国際契約対応を含めた体制強化
- 協生環境推進およびSDGs対応(メンタリング・プログラム、塾生会議等)
- 人事システムの柔軟な運用(海外副指導教授、年俸制によるシニア有期教員の任用等)
- 事務職員のグローバル対応力向上(海外研修・OJT・協定大学との職員交流等)

財政

- 自走化財政基盤：基金90億円組入達成→グローバルエンゲージメント基金の運用により毎年1.8億円の財源確保
- 学内経常費予算への統合(スーパーグローバル事業本部からグローバル本部への予算継承)
- 卒業生ネットワークの活用(寄付金による基金・奨学金創設等)

福澤理念「独立自尊」「半学半教」「自我作古」

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【Ⅰ. 事業全般について】

・クロス・アポイントメント制度による国際共同研究の促進

クロス・アポイントメント制度によって海外の教員を大学院生の副指導教授として受入れる海外副指導教授制度を整備、運用した。2023年度までの任用数の累計は900名を超え、多くの大学院生に海外の研究者から指導を受ける機会を提供し、国際共同研究等を促進した。全ての海外副指導教授と受入教員に課した「海外副指導教授制度最終報告書」の解析によって制度を恒常的に発展させた結果、2023年度における調査での満足度は海外副指導教授、受入教員ともに平均4.9点（5点満点）に達した。本制度はSGU事業終了後も発展させる。

・慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）による研究基盤整備と国際連携の強化

SGU事業の柱として2016年11月に、統合的研究教育拠点「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）」を設立し、「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターによる文理融合および領域横断の教育研究を推進した。本学の理念である「実学（サイエンス）」に基づき、地球社会の健全な持続発展に関する研究と人材育成に従事した。国内外で最先端の研究・教育に携わる研究者や著名人を招く講演会（KGRI Lecture Series、Great Thinker Series）を対面（コロナ禍はオンラインで）開催し、その動画やその他の情報を公開することで、国内外に研究活動と成果を発信した。コロナ禍においても世界との対話を促進したことは、コロナ禍後の本学における北大西洋条約機構（NATO）事務総長イェンス・ストルテンベルグ氏講演会（2023年2月）、尹錫悦大韓民国大統領講演会（2023年3月）、OpenAI CEOサム・アルトマン氏講演会（2023年6月）などにつながった。これらは、世界を舞台としたKGRIの研究活動と国際的発信の成果であり、2024年度に本学から申請したJSPS「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の採択にもつながった。SGU事業で設置したKGRIは、J-PEAKSという次の大きな事業の中核に発展した。

・GICセンターによる全学部の学生が履修できる外国語プログラムの提供

SGU事業によりGICセンター（Center for Global Interdisciplinary Courses）を設立し、2015年度から全学部の学生を履修対象とする、国際的・学際的な諸問題を英語やその他の言語で学ぶプログラム（GIC）を開始した。GICによって本学の外国語による授業科目数が増え、各学部・研究所・センターが設置するGIC認定科目の履修実績は毎年約10,000名以上に達した。上述の世界のオピニオンリーダーによる講演会において学生たちが英語や諸外国語で積極的に質問できたことには、GICの寄与が少なくない。2024年度以降も、留学生を含め、背景を異にする多様なメンバーが集い、専門領域にとらわれず、グローバルな問題について様々な学問的観点から議論を交わす学びの場を提供していく。

【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

・海外副指導教授制度のオンライン展開

海外副指導教授制度の存在がコロナ禍での国際化を維持した。2018年度からオンライン指導も対象として知見を積み重ねたことが功を奏し、コロナ禍においても学生たちがシームレスな状況で海外から指導を受ける機会へ発展できた。

・オンラインでの留学フェアを通じたオールジャパンでの日本への留学の誘致

日本の大学の魅力を世界中の学生や研究者に伝えるため、本学が主催する日本留学フェア“Experience Japan Exhibition”をコロナ禍の2020年からオンラインで開催した。コロナ禍以前はロンドンにて対面で開催していたフェアをオンライン化した結果、2021年には、過去最多となる全国26の大学等と5つの機関が出展し、アジアやヨーロッパを中心に60カ国以上から大学生と高校生約2,080人が日本への留学を目指して参加した。大学や機関がそれぞれのバーチャルブースを設置し、留学プログラムに関する説明会や、来場者とのグループ相談会などを行った。

・コロナ禍の留学機会の提供と留学を目指す日本の大学生へのワクチン接種の実施

本学の大学生の国際交流機会を担保するために、APRU Virtual Student Exchange Program、慶應サマープログラム、短期日本学講座（KJSP）、復旦大学との文化交流講座などのオンラインプログラムを積極的に実施した。2021年7月に本学が先駆けて始めたワクチン職域接種では、同年秋からの留学を目指す本学だけでなく他大学の学生にも優先接種の機会を提供することで、留学の夢を叶えた。